



令和5年度 施設の評価表

たかさごSCHOOLおたかの森

評価日：令和6年3月28日

I. 経営の重点に関わること

評価について A…十分達成している B…概ね取り組んでいる C…取り組んでいるが、成果が十分でない

項目	内容	自己評価	課題点・改善案
1 保育所・保育指針	・幼保連携型認定こども園教育保育要領、保育所保育指針、全体的な計画は、園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて教育保育のねらい、内容が総合的に展開されるよう編成されている。	A	職員会議・リーダー会議・幼児ブロック会議・乳児ブロック会議・全体的な計画・年間指導計画・HIROKOメソッドの実践をもとに指導案についての作成・話し合い計画・実行・確認・実行のサイクルで取り組んでいる。次年度は新たな満3歳児受け入れに向けての取り組みを浸透させつつ、本園・分園との連携を充実させていく。
	・全体的な計画をより適切なものに改めていくという姿勢を全職員が持っている。	A	
	・指導計画を作成するにあたり、一人ひとりの子どもの発達過程や状況、クラスの実態について職員の共通認識のもとに作成している。	A	
	・子どもの発達状況、月や期の目標、教育、保育の実態について職員間で話し合う機会を設けている。	A	
	・就学先の小学校へ子どもの育ちを支える資料を確実に送付し、情報共有を図っている。	A	

II. 各領域に関わること

項目	内容	自己評価	課題点・改善案
1 施設の保守点検	・施設の保守点検	A	設備点検・消防用設備点検・固定遊具安全点検・防災訓練・不審者訓練・害虫駆除等に取り組んでいる。防犯面では玄関施錠とし共にセキュリティーシステムを活用し、インターホンでの確認後に開錠をしている。また策定し業務推進計画の浸透をすすめる。
	・施設の清掃等	A	
	・防災への配慮	A	
	・防犯への配慮	A	
2 子どもの権利の尊重	・子どもの権利について職員全体で理解し、十分配慮している。	A	全国保育士会倫理綱領・児童憲章・個人情報保護マニュアル（プライバシーポリシー・情報管理マニュアル・鍵管理）・NG用語虐待マニュアル等とそれに基づいた園内研修に取り組んでいる。毎日の屋礼・毎月の職員会議では子どもの様子や気になる事等を話し合い共通理解している。時間外に携わる職員も多くいるので、全体で周知出来るようにしている。
	・保育者は子どもに対して威圧的、命令的、否定的な言葉遣い、身体的虐待をしていない。	A	
	・長期欠席の子どもの状況把握をしている。	A	
	・子どもの様子で気になる事は関係機関に報告している	A	
	・個人情報保護について職員全体で確認し十分配慮している。	A	
3 教育・保育施設並びに保育者の質の向上	・地域の状況を把握し、法人の目指す教育、保育方針を理解し園としての取り組みを職員へ伝えている。	A	幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針・幼稚園教育要領・全体的な計画・経営理念・経営ビジョン・教育保育目標・保育方針を保護者に伝え、保護者面談・食育活動・保健計画等に基づき取り組んでいる。行事後のアンケートや1年に1回行う保護者アンケートでは、いただいたご意見・要望に対して真摯に受け止め、よりよいものに改善していく努力をしている。
	・幼保連携型認定こども園教育保育要領、保育所保育指針を理解し向上心を持って教育・保育に取り組んでいる。	A	
	・子どもと保護者のおかれた状況を受け止め保護者とのよりよい関係を築き良好に保つための努力をしている。	A	
	・利用者（保護者）の意見を聞き改善に努めている。	B	
4 環境	・保育者は、自身が子どもにとって重要な環境である事を十分に意識し、子どもの人権に配慮した対応をしている。	A	年齢ごとの子どもたちにあった遊びを用意しているが、一人ひとりの成長発達にあわせた遊びまでの提供に改善の余地がある。今後、職員間でも話し合いながら環境設定を向上できるようにしていきたい。整理整頓が不十分な点は担当を定めて適切な状態が維持できるようにしていく。
	・各保育室は整理整頓され、雑然としていない。	B	
	・各保育室には、一人ひとりの成長発達を考慮した遊びを準備している。	A	
5 愛着形成	・保育者は一人ひとりの思いを受け止め、共感したり認めたりしながら、信頼関係を築いている。	A	全体の計画・年間指導計画・乳児個人計画・児童表・日々の記録等を用い子どもの行動や様子興味関心を記録し振り返りをしながら行っている。
	・子ども同士が互いの気持ちや発信を受け入れられるように援助している。	A	
6 健康・安全	・乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助がおこなわれるように、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置付けるとともに評価・改善に取り組んでいる。	A	緊急時、災害時対応マニュアル・SIDSチェック・アレルギー対応・保健計画・感染症マニュアルによる研修・健康チェック表・検診報告・遊具点検チェック・緊急時職員体制・緊急時フローチャート・避難訓練等での対応をしている。 今後も継続的に具体的に取り組みを行う。園生活に慣れるよう情緒の安定に配慮をし、子どもの生活リズムを理解して頂けるように保護者へ伝えていく。梅雨時期の衛生に気をつけていく。新型コロナウイルス感染症、インフルエンザまたは他の感染症などの対策を継続していく。衣類は生理機能等を交えて知らせ、外出時と室内時、安静時と活動時の衣服調節をし、動きが制限されないように配慮する。手洗い、消毒、換気、健康観察、玩具消毒の実施を継続的に行う。寒さに負けない体づくりを推進する。
	・アレルギー対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	A	
	・子ども一人ひとりの生活リズムや体調を考慮し、睡眠・食事・遊びのバランスを取っている。	A	
	・SIDSチェックには十分配慮し対応し、睡眠時の記録を取っており、睡眠している時は必ず、保育者が保育室にいる。	A	
	・年2回健康診断（内科検診・歯科検診）を行っている。	A	
	・衛生管理・感染症対策等に関するマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	A	
	・年齢発達に合わせて、うがいや正しい歯磨き、手洗いの方法を指導している。	A	
	・子どもの健康について保護者との情報を共有している。	A	
	・施設内外や園外保育先の安全点検を実施してから子どもを遊ばせている。	A	
	・緊急時に対応できる職員体制が整っており、役割分担が決まっている。	A	
	・子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり安全に配慮して駆動できるよう、計画的に教育・保育を実施している。	A	
	・薬品や洗剤の管理、転倒防止や指詰め防止、避難経路の確保が適切である。	A	
	・栄養士・保育者等は衛生管理への配慮がなされている。	A	
・警察や消防署、近隣の病院との連携が取れる体制がある。	A		
7 幼保小連携	・0.1歳児からの保育の積み重ねが5歳児の姿となり、小学校就学への滑らかな移行につながることを全職員が理解している。	A	児童票・園児指導要録・幼保小連携計画をもとに作成している。
8 特別支援	・必要に応じて支援センター等との助言を受けている。	A	流山市との連携・特別支援児年間計画・面談相談・外部機関と連携を持ち、療育施設の園訪問を積極的に受け入れて一緒に成長を促す。
	・子どもの成長発達を保護者と共有する保育参観・授業参観や個人面談等を設けて、相互理解を図っている。	A	
9 保護者、家庭及び地域と連携した子育て支援	・第三者評価や、利用者アンケートに取り組み、その結果を保護者に伝え、教育・保育の改善に活かしている。	A	保護者アンケート・行事後アンケート・子育て支援イベントアンケート等の回答からより良い行事イベントとして活かしていけるよう取り組んでいる。利用者の年齢や地域のニーズに合わせたプログラムを精査し、より求められる内容にしていく。
	・行政や地域で行われている子育て支援施策を理解し取り組み、必要とする家庭と関係機関につなげている。	A	
	・施設が実施している子育て支援事業の情報を積極的に発信している。	A	

考察

今年度は新型コロナウイルス感染症が第5類になり、インフルエンザと共に感染対策をした。行事やイベントについては4年振りにコロナ禍以前の内容に戻した開催をなるべくできるようにして取り組んできた。保育教育プログラムのHIROKO METHODの実践やICTツールの活用は大切な柱として位置づけ継続して行なった。園で実施した大きな行事では、3-5歳児クラスでは教育内容を発表する「学習発表会」、0-5歳児クラスでは歌やダンスや劇でお子様の育ちを発表する「クリスマス発表会」を開催した。実際に保護者にご覧頂き、園での教育・保育プログラムを通したお子様の育ちをお伝えするように構成し、良い感想や満足を得られた。すでに導入しているICTツールを活かした動画配信システムでは、クラスレターや行事のダイジェストをコメント・写真・動画で配信し、お子様たちの様子をもっとわかりやすく簡単に身近に感じられ事をポイントとし、保護者に喜ばれている。園の公式LINEの導入をし、園内外の繋がりと情報発信の強化に繋がった。SDGsの取組みは、毎年の積み重ねの内容に今年度のテーマを加えて4年目を迎えた。今年は、海外の子供の様子を伝えたりしながら、水をテーマに設定をして注力した。この他に年齢に合わせた実践型の内容を設定し拡がりを設けている。今年度の企業とのコラボレーション企画では、株式会社PORA ORBISホールディングスとのプロジェクトを実施した。乳幼児期のスキンケアをテーマにワークショップ等を行い、保護者にはお子様の肌についての知識向上、肌ケアへの方法が無理なくお伝えする結果となった。事前事後のアンケートからも良い機会となったことが確認できた。5年ぶりに第三者評価受審をした。記名式の昨年度の保護者アンケートと変わらず、「満足」より「大変満足」の割合96%だった。しかし、より良い園の在り方を目指して、次年度もアップデートという共通意識で、勉強会や情報共有の機会を多く設ける事とする。来年度以降も引き続き、より良い保育と教育を提供できるように取り組んでいく。